

作成日：2021年10月14日

研究課題「同種造血幹細胞移植後患者の復職状況の実態調査」に関する情報公開

1, 研究の目的

当院では造血幹細胞移植を年間約 50 件行っている。移植患者と関わる中で、移植前後で状態が大きく変化する患者も少なくない。その中で関わった患者は、移植前にフルタイムで就労し生計を立てており、退院後早期復職に対する希望はあった。しかし、移植後 ADL(日常生活動作：Activities of Daily Living)低下や GVHD (移植片対宿主病：Graft Versus Host Disease) の症状により、長期入院を余儀なくされ早期復職は困難となった。その事例を通して今まで退院された移植後の患者の就労状況はどのようなものだったのか疑問に思った。

造血幹細胞移植後は、退院後も日常生活上の行動の制限があり、以前の生活と違いが出てくるため、早期の社会復帰は困難なことが多く、役割の喪失につながる事が考えられる。役割の 1 つである就労は収入を得るだけでなく、社会との繋がりを持ち、自己実現する側面がある。就労しなければ、経済的基盤がなくなり、貧困や治療困難・中止となるだけでなく、社会的役割を持つことでの自己実現が脅かされることになり、社会的な QOL (治療や療養生活を送る患者の肉体的・精神的・社会的・経済的すべてを含めた生活の質：Quality Of Life) を低下することにつながる。入院生活で患者と関わる時間が長い看護師は今後の生活について一緒に考えていく機会を持つことが必要であると感じた。移植後患者の復職できた状況、復職が困難だった状況を明らかにし、現状を知ること入院中に介入できることはないかを模索するための情報源として実態調査を行う。

2, 研究対象

2016年4月から2020年8月までに同種造血幹細胞移植を受け、退院後半年以上生存した18歳から59歳までの患者

3, 研究に用いる情報

①2016年4月～2020年8月までに移植を行った18～59歳の患者件数

②診療録

- ・退院後半年以上生存した患者
- ・退院後の GVHD や感染症の症状
- ・免疫抑制剤の内服状況

③看護記録 (長期フォローアップ外来の記録含む)

- ・復職した患者の男女比・年齢
- ・移植前後の職業内容

・復職できなかった理由

④理学療法士の記録

・移植前後の身体機能評価

MMT（徒手筋力テスト）：日常生活動作を介助なしに行えるかどうかの評価

6MD（6分間歩行試験）：6分間平地を歩いて、肺や心臓の病気が日常生活の労作にどの程度障害を及ぼしているか調べるための検査

握力

⑤社会福祉士の記録

・社会制度や支援を使用していたか

4. 研究組織

研究実施責任者：今村総合病院 A棟8階病棟 看護師 池田 清夏

研究分担者：今村総合病院 A棟8階病棟 看護師 石原 愛梨、清藤 樹乃、
南 由希美、櫻井 満理奈、上山 りえ

5. お問い合わせ先

◎ 本研究に関するご質問・相談がある場合

◎ 研究を希望されない場合

情報が該当研究に用いられることについて患者様、もしくは患者様の代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としません。その場合は当施設の担当者の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

当施設の相談窓口

研究責任者（当施設）：今村総合病院 A棟8階病棟 池田 清夏

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 11-23

TEL 099-251-2221

担当者：今村総合病院 A棟8階病棟 石原 愛梨